

人文学部 3つのポリシー (2023 年度生用)

I. 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

人文学部は、現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの修得を通して、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」と同時に、個性的、自律的な人間となることができるように、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、主に社会学・教育学・英語英文学の各学問分野の知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 多様な人々との協創

グローバル化が進み変動していく現代社会において、異なる立場や価値観を尊重し、主体性をもって多様な人々と協力して学びあう態度を養うこと。

II. 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

人文学部はディプロマ・ポリシーの達成のために、以下の3点をカリキュラム・ポリシーとして明示します。

1. 基礎から発展へ

学士課程教育に必要な基礎的な知識や技能を身につけるために、初年次教育科目を置くと共に、主に社会学、教育学、英語英文学の各学問領域に関する、基礎的知識から発展的内容を体系的に教授する科目を主専攻科目に配置します。各学問領域に即した社会で応用できる技能や能力を向上させる教育プログラムを設けます。

2. 視野の拡大

人間、文化、社会の多様性と普遍性に関する広い視野を有する豊かな人間性を培うために、全学共通教育科目、人文学部総合科目、専攻科目、関連科目等を体系的に配置します。学士課程における学習成果の集大成として卒業研究を必修とします。

3. 経験の拡充

卒業後の実社会で主体性をもって「協創」するため、様々な授業形態・方法を取り入れた科目を配置します。専門的な内容を掘り下げて研究する、少人数形態のゼミナールを専攻科目に配置します。これからの社会の変化に対応し、幅広い視野を身に付けるため、国内外での現場研修、体験実習などのプログラムを提供し、単位を認定します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

人文学部では、現代社会における諸現象・諸問題に関心を持つ人、教育という営みについて多様な視点から考察する意欲を持つ人、英語や英語圏の文化に強い関心と探究心を持つ人、多様な価値観を持つ人々と協力して課題を解決しようとする人を広く国内外から求めます。基本的学力として、各学科・専攻がそれぞれ定める①知識と技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と「協創」し、学びあう態度という学力の3要素を持つ人を求めます。

2. 入学試験制度と評価

人文学部は、上記の基礎能力や資質を確かめるために、入学試験制度ごとに「知識と技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と「協創」して学びあう態度」を多面的・総合的に評価します。評価の比重および評価方法は、各学科のアドミッション・ポリシーで明示します。

3. 人文学部の教育を通じて養う能力

人文学部の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じて、ディプロマ・ポリシーで定める①知識と技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と「協創」して学びあう態度を養い、個性のかつ自律的な「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」を育成します。

人間関係学科社会学専攻3つのポリシー（2023年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間関係学科社会学専攻は、次の3つの能力・態度を修得した者に学位を授与します。

1. 知識と技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現できるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した社会的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力などを有するようになること。

3. 多様な人々との協創

激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と共創して学びあう態度を養うこと。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人間関係学科社会学専攻は、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを以下のようにします。

1. 基礎から発展へ

社会学の方法・理論の成り立ちと現代的展開に関する基礎的知識を体系的に教授する科目を、主専攻科目の人間関係学科科目、社会学専攻科目に配置します。

2. 視野の拡大

広い視野を有する豊かな人間性を培うために、多角的な社会的視角から実社会を理解するための社会的視角・方法・理論を教授する多様な科目を人間関係学科科目、社会学専攻科目に配置します。

3. 経験の拡充

実社会で主体性を持って多様な人々との共創を学ぶために、社会学専攻科目に専門講義科目（応用）、専門特殊演習科目を配置し、留学やボランティア活動などの経験を社会学的方法・理論で理解・表現できる能力を養います。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

人間関係学科社会学専攻は、高等学校卒業程度の学力、すなわち入学後に学士課程教育を受けるに必要な学力を有し、本学で学ぶ次のような人を広く国内外から受け入れます。具体的には、(1)社会における諸現象・諸問題に関心があり、自ら調査し、考えて、他者とコミュニケーションすることによって学ぼうとする人、(2)豊かな人間性を培うために、広い視野を有し、多角的な社会学的視角から実社会を理解しようとする人、(3)社会学の視角・方法・理論を修得しようとする人、(4)将来に関して目標を持ち、自己の人生を切り開くライフ・デザイン能力を身につけようとする人です。

人間関係学科社会学専攻が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における英語・国語・社会科・数学などの教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、社会の構造や仕組、社会に生きる人々の意識や価値観を理解し、社会における現象や問題・課題について理解・分析し、自身の考えを表現し、他者と議論する際に基礎となる能力を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を身につけるために主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3)主体性等

激しく変動していく現代社会において、多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って多様な人々と学びあう態度と、相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、英語と国語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

人間関係学科社会学専攻は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度にお

ける評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)総合型選抜

人間関係学科社会学専攻への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、主として個別学力検査に基づいて、面接、自己申告書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して選抜します。さらに、面接にもとづいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（公募）

人間関係学科社会学専攻での学修に意欲を持つ者で、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として個別学力検査と面接にもとづいて、自己申告書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して学生を選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力にもとづいた資料小論文方式を実施します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（指定校）

人間関係学科社会学専攻への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として面接に基づいて、志望理由書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して、学生を選抜します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて人間関係学科社会学専攻で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて人間関係学科社会学専攻で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8)社会人選抜

社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、個別学力検査にもとづいて、面接、自己申告書、調査書の内容、社会人としての活動・経験などを加味して選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力にもとづいた資料小論文方式を実施します。

(9)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(10)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(11)編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価した上で、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 人間関係学科社会学専攻の教育を通じて養う能力

人間関係学科社会学専攻の教育を通じて養う能力は、以下のような能力です。

(1)社会学の知識にもとづく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現できる能力。

(2)修得した社会的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力。

(3)激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と学びあう能力。

(4)国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを主体性をもって学問的に追求する能力。

(別表)各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目)

【人間関係学科社会学専攻】

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定 (前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・課題小論文 ・調査書	◎	・課題小論文 ・面接 ・自己申告書	◎	・面接 ・自己申告書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)	◎	・小論文 ・推薦書 ・調査書	○	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・自己申告書	◎	・面接 ・推薦書 ・自己申告書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

教育学科 3つのポリシー（2023年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるように、以下の3点をディプロマ・ポリシーとして定めます。

1. 知識と技能

教育学及び教育実践に関する確かな知識と、得意とする専攻した分野の専門的知識を修得すること。教育活動に取り組むための十分な技能を身につけること。

2. 思考力・判断力・表現力

教育現場で生じているさまざまな課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができるようになること。

3. 多様な人々との協創

教育的視点から学校・家庭・地域社会と連携・協働することによって、グローバル時代における多様な課題の解決を図ることができるようになること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 基礎から発展へ

初年次から卒業年次まで少人数教育を実施し、「人間の発達と形成」に関する教育学的リテラシーの形成を図ります。誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する視点から、主専攻科目を段階的に開設します。また、学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。

2. 視野の拡大

「人間の発達と形成」に関して、誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解できるよう、学際的・総合的視点から主専攻科目を開設します。

3. 経験の拡充

「人間の発達と形成」に関する生きた学びの機会として、地域社会における多様な教育実践の機会を提供します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

教育学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。教育学とは、ある社会・文化における人間の生成・発達と学習の過程に意図的に働きかける教育という営みを対象とする学問です。そのため、教育学を学ぶ学生には、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する力を身につけることが必要です。

教育学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

教育学の専門分野を学ぶために必要な高等学校までの基礎的・基本的な知識・技能を習得し、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成したり、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめたりするなど、それぞれの教科の知識・技能を活用できる力を身につけている人。

(2)思考力・判断力・表現力

教育学的な視点で自ら問題を発見し、課題解決のため教科等を横断した探究活動ができる力を身につけている人。

情報を多面的・多角的に精査し構造化することを通して、自分の考えを形成し、様々な方法で表現できる力を身につけている人。

(3)主体性等

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる態度が身についている人。

多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力が身についている人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、国語については、高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

また、自ら問題を発見し、様々な情報を活用しながら、問題を解決し、それを発信できる言語能力を高めてきてください。

2. 入学試験制度と評価

教育学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評

価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

資料小論文では読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。資料小論文の結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(8)社会人選抜

資料小論文では読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

資料小論文の結果及び出願書類にもとづき行う面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9)編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査と小論文によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。個別学力検査と小論文及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 教育学科の教育を通じて養成する人材像

教育学の学修方法は、「教える－学ぶ」に関連する理論と実践について、言語、身体、感覚のすべてを視野に含みつつ、考察を行うことを基盤としています。その学修方法を通して、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する能力を身につけます。

(別表)各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目) 【教育学科】

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定 (前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
学校推薦型 選抜	学校推薦型選抜(公募)	◎	・小論文 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

英語英文学科 3 つのポリシー (2023 年度生用)

I. 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

英語英文学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の 3 点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聞く・書く・話すことの反復をとおして、言語としての英語、及び英語圏の文化の諸相に関する知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自らの課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 多様な人々との協創

グローバル化が進む社会において活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、主体性をもって異なる文化や価値観を等しく尊重し学び合う態度を養うこと。

II. 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

英語英文学科は、学生一人一人が円滑に大学での学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の 3 点を教育課程の編成方針として明示します。

1. 基礎から発展へ

基礎的な英語運用能力を修得し、専門性の高い学修に結び付けるため、初年次の英語力錬成科目から高学年次の発展的な科目へ、科目を段階的に配置します。

2. 視野の拡大

英語圏の文学・文化と英語学・英語教育学に関する専門的知識の修得にむけて、自専攻科目の中にそれぞれの分野の科目を体系的に配置します。学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。

3. 経験の拡充

卒業後の実社会での活動に資するため、時事問題や各種英語検定に対応した科目群のほか、語学の専門職に必要な技能を育成するための科目群を配置します。また英語圏での授業や

生活を通じて、英語の実践的運用能力を向上させ、同時に幅広い国際的視野を身につけることができるように海外研修プログラムを提供し、単位を認定します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

英語英文学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、言語や文化、とりわけ英語や英語圏の文化に強い関心と探究心があり、英語習得に必要な不可欠な努力を惜しまず、英語で他者と積極的に交流し、多様な価値観を持つ他者とともに問題の解決に当たる協創性を備えていることを重視します。英語英文学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における英語・国語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、英語圏の文学や英語学・応用言語学の文献読解、さらにこれをふまえた論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎となる英語の音声・語彙・文法の知識及び「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

言語や文化に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3)主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

最も基本的なことを具体的にあげれば、すべての科目で自ら進んでノートを取ることを、授業中挙手して大きな声で発言することです。英語学習に関しては、英文法を一通り学習するこ

と、正しい発音で大きな声で音読すること、英検等各種検定試験に積極的に挑戦することです。これらのことは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」等の育成に役立ちます。

2. 入学試験制度と評価

英語英文学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)総合型選抜

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、英語力試験にもとづいて基礎となる英語能力を評価します。さらに、面接にもとづいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望し

ていることを確認した上で、資料小論文試験にもとづいて基礎となる英語能力及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接にもとづいて、主体性と、口頭による思考力・判断力・表現力を評価します。また、出願書類にもとづき、取得した英語資格も加味します。学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)学校推薦型選抜(附属校)

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜(附属校)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(10)編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価した上で、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 英語英文学科の教育を通じて養う能力

言語としての英語、および英語圏の文化の諸相に関する知識と、国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを学問的に追求し、主体性をもって協創する能力を身につけます。

(別表)各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目)【英語英文学科】

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜 (前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定 (前期 C 日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜 (後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程、後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト 併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型 選抜	総合型選抜	◎	・英語力試験 ・面接 ・調査書 ・活動報告書	◎	・英語力試験 ・面接 ・志望理由書 ・活動報告書	○	・面接 ・志望理由書 ・活動報告書
学校推薦型 選抜	学校推薦型選抜 (公募)	◎	・小論文 ・英語資格・検定 ・推薦書 ・調査書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜 (指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜 (附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書